

2026年3月期 第2四半期決算説明資料

FY2026 Q2 Financial Results Presentation



AKIBA HOLDINGS

2025.11.12

CONTENTS

【2026年3月期 第2四半期決算説明資料】

- 01. トピックス・概況
- 02. 2026年3月期 第2四半期決算概要
- 03. 2026年3月期 通期連結業績予想
- 04. 事業セグメント別概況

【参考資料】

会社概要・沿革

2026年3月期の業績予想と各事業の方針・施策

財務情報、株式情報

※資料中の数字の単位は、別途指定ない限りすべて百万円

01

トピックス・概況 TOPICS・Overview

1. トピックス：2026年3月期 第2四半期決算

上期累計もメモリ・HPC事業が牽引し大幅増収増益。通期業績予想に対し順調な進捗

上期は大幅増収増益。
営業利益は前年同期比
208.7%を達成

メモリ事業は需要拡大で
黒字転換、HPC事業は大型
案件増加で増収継続

上期は順調に推移し、
通期達成へ施策推進
業績予想に変更なし

当第2四半期累計（上期）は、売上高9,414百万円（前年同期比120.6%）、営業利益275百万円（同208.7%）と、第1四半期に続き大幅な増収増益を達成しました。

メモリ・PC関連デバイス事業がWindows 11への移行需要等を背景に大幅増収・黒字転換したことに加え、HPC事業も大型案件の受注増加により増収増益となり、連結業績を牽引しました。

上期の業績は順調に進捗しており、通期連結業績予想の達成に向けて、下期も各事業において諸施策を推進してまいります。なお、現時点において通期連結業績予想に変更はありません。

1. 概況：2026年3月期 第2四半期決算

**メモリ・HPC事業の牽引により、上期累計売上高は前年同期比120.6%の大幅増収
メモリ事業の黒字転換が寄与し、上期累計の営業利益は同208.7%を達成**

当第2四半期連結累計期間（上期）におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続きましたが、物価上昇や不安定な為替相場など、先行きは依然として不透明な状況が継続しました。

こうした経営環境下、当社グループは、メモリ・PC関連デバイス事業においてWindows11移行需要を的確に捉えたことに加え、HPC事業における大型案件の受注増加により堅調に推移しました。

この結果、上期累計（2Q累計）の売上高は9,414百万円（前年同期比120.6%）、営業利益は275百万円（同208.7%）と、大幅な増収増益を達成し、上期は全社として順調な進捗となりました。

通期連結業績予想の達成に向け、下期も各事業における諸施策を確実に推進し、収益基盤の強化に努めてまいります。

	2025/3 2Q実績	2026/3 2Q実績	前年同 四半期比	2026/3 業績予想	前期比
売上高	7,807	9,414	120.6%	18,900	103.4%
営業利益	132	275	208.7%	660	92.2%
経常利益	109	261	238.0%	600	90.6%
親会社株主に帰属 する中間純利益	△86	160	－	400	356.3%
一株当たり 中間純利益	△9.43円	17.47円		43.55円	

※本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません

02

2026年3月期 第2四半期通期決算概要 FY2026 Q2 Financial Results Summary

2. 2026年3月期第2四半期決算概要：事業セグメント



AKIBA HOLDINGS

メモリ・PC関連デバイス・IoT



株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック



株式会社バディネット

株式会社ブランチテクノ



通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等

※ブランチテクノは2024年4月1日に連結子会社化（2024年6月30日がみなし取得日）

※バディネットがリーバンを2025年3月31日付で吸収合併

H P C
(高性能科学技術計算機)



株式会社H P C テック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他（旅館他）

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等



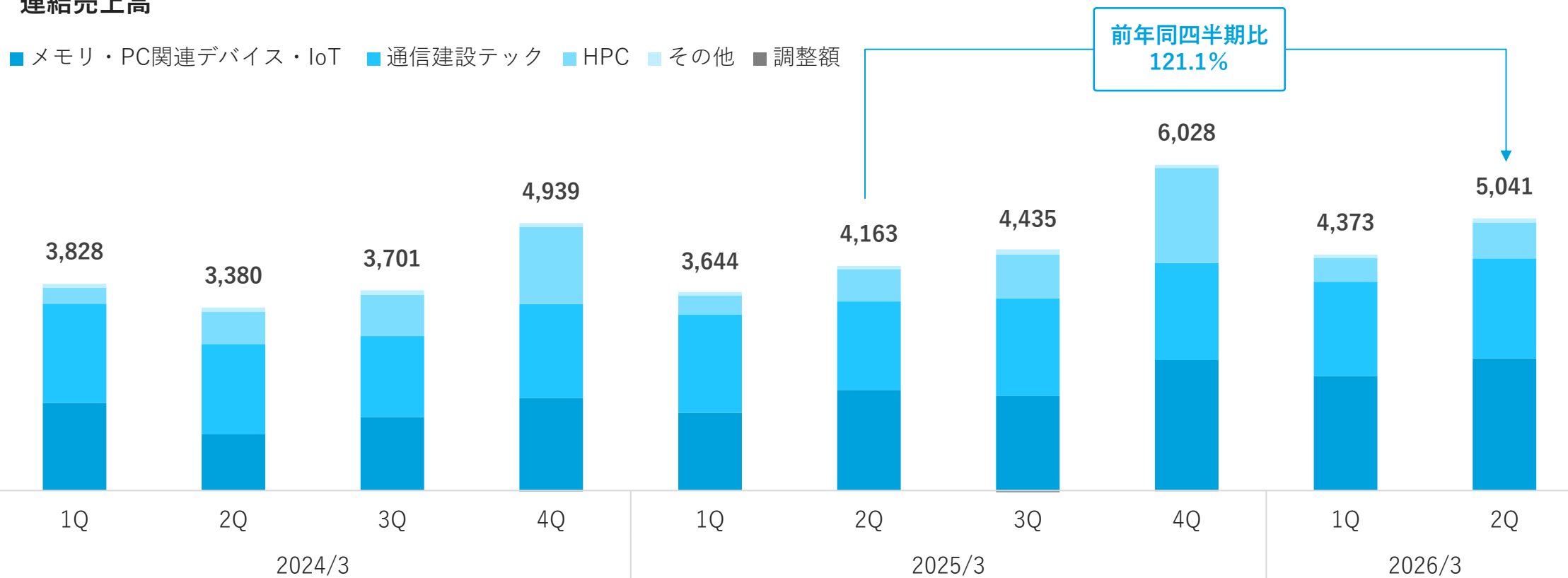
2. 2026年3月期第2四半期決算：事業セグメント別の概況

	売上高	前年同四半期比	営業利益	前年同四半期比	トピックス
連結	9,414	120.6%	275	208.7%	
メモリ・PC関連 デバイス・IoT	4,563	138.2%	8	前期は△93 の損失計上	Windows 11移行需要やメモリ品薄感を背景に売上高大幅伸長、大型案件も継続受注し、1Qからの営業利益黒字を継続
通信建設テック	3,608	105.4%	118	86.3%	キャリア向け案件で安定した工事件数を確保。再エネ案件の計上等により増収、成長投資こなし前期並み利益水準確保
H P C (高性能科学技術計算機)	1,102	114.5%	105	172.5%	継続的な顧客接点から大型案件の受注増加で売上・利益に寄与。受注構成の変化による収益水準改善で大幅増益
その他 (旅館ほか)	140	117.5%	42	156.7%	2Qはキャンペーンの奏功で増収。オペレーション改善継続による費用抑制も寄与。 (全社費用等の調整額を含む)

2. 2026年3月期第2四半期決算：連結売上高

メモリ事業の大幅な伸長に加え、HPC事業も堅調に推移し連結売上を牽引
第2四半期会計期間の売上高は5,041百万円で前年同期比121.1%と大幅伸長

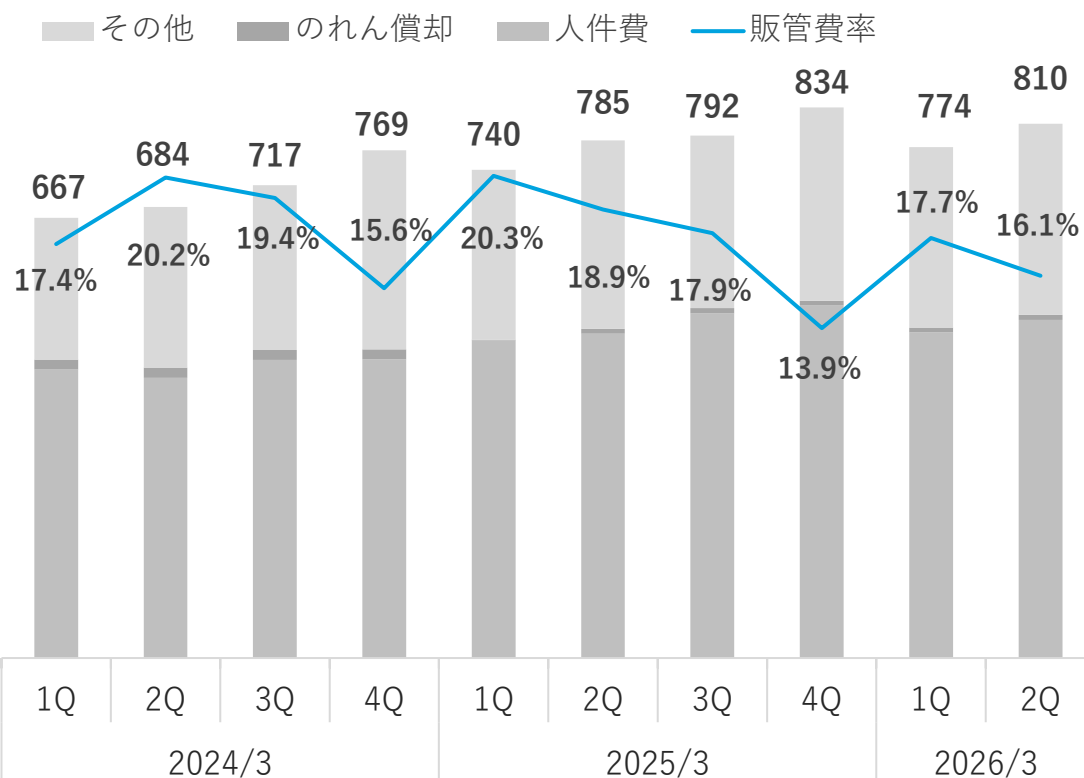
連結売上高



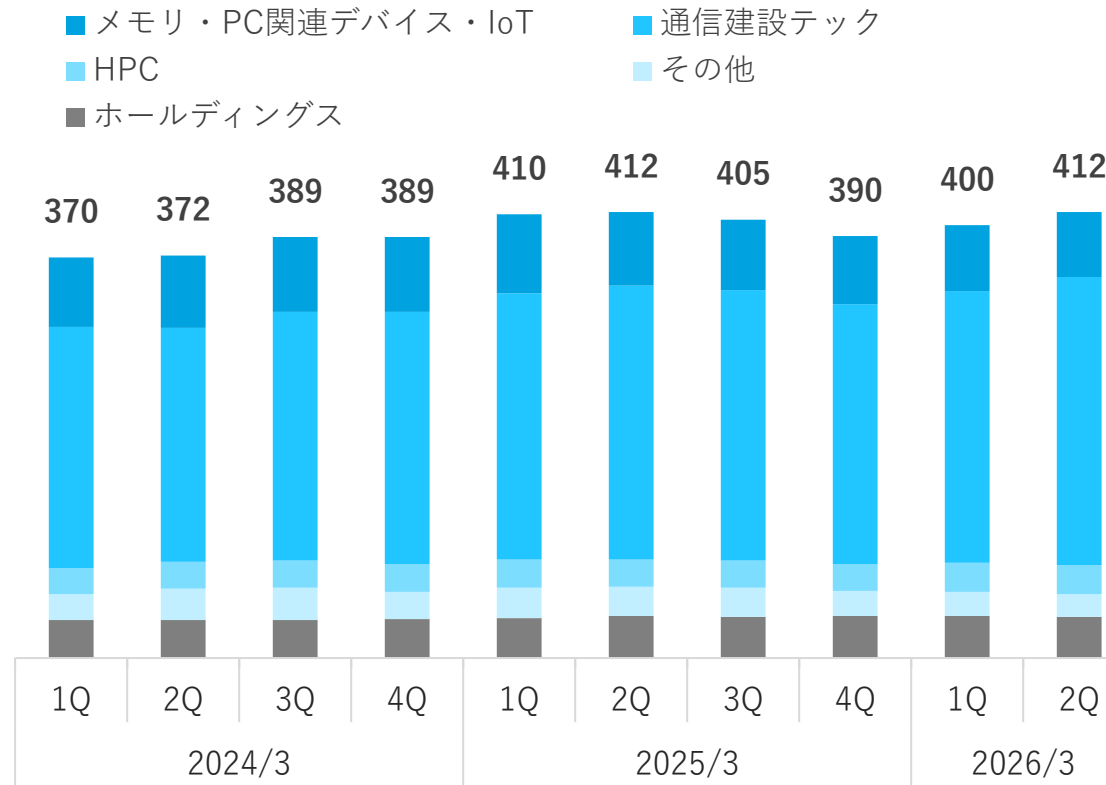
2. 2026年3月期第2四半期決算：販売費及び一般管理費・役職員数

成長投資継続し販管費は前年同期比で増加したものの、増収効果により販管費率は改善
第2四半期会計期間の販管費率は16.1%（前年同期比 2.8ポイント改善）

販売費及び一般管理費（百万円）



役職員数（人）



2. 2026年3月期第2四半期決算：連結貸借対照表

売掛債権の回収と純利益の計上に伴い、負債が減少し自己資本比率が27.5%へ改善

- 売掛債権は、回収が進んだことにより前期末（25/3末）比で699百万円減少し、現預金が同120百万円増加し安定した水準を維持しました。
- 長期借入金の返済が進み、有利子負債合計は前期末と比較して436百万円減少しました。
- 上期において親会社株主に帰属する中間純利益160百万円を計上したことに伴い、純資産が増加。自己資本比率も前期末の25.9%から1.6ポイント改善し27.5%となりました。

連結貸借対照表

	2025/3末	2025/9末	差異	前期末比
流動資産	12,657	12,460	-197	98.4%
現預金	5,369	5,489	120	102.2%
売掛債権	5,243	4,543	-699	86.6%
棚卸資産	1,428	1,715	286	120.1%
固定資産	970	967	-2	99.7%
資産合計	13,627	13,427	-199	98.5%
流動負債	6,817	6,810	-6	99.9%
短期借入金	3,650	3,650	-	100.0%
一年以内返済予定長期借入金	993	943	-49	95.0%
一年以内償還予定社債	60	60	-	100.0%
買掛金	1,403	1,574	171	112.2%
固定負債	2,832	2,454	-378	86.7%
長期借入金	2,397	2,041	-356	85.1%
社債	240	210	-30	87.5%
負債合計	9,649	9,265	-384	96.0%
株主資本	3,531	3,692	160	104.6%
資本金	100	100	-	100.0%
利益剰余金	2,650	2,810	160	106.0%
純資産	3,978	4,162	184	104.6%
負債・純資産合計	13,627	13,427	-199	98.5%

2. 2026年3月期第2四半期決算：連結損益計算書

上期(2Q累計)もメモリ・HPC事業が牽引し売上高は前年同期比120.6%を達成
大幅な増収効果で各段階利益も伸長し、収益性が大きく改善

- メモリ事業においてWindows 11への移行需要を捉え売上が大幅に増加したことに加え、HPC事業での大型案件受注も寄与し、売上高は前年同期比120.6%（9,414百万円）となりました。
- 増収効果により、売上総利益も同112.3%（1,861百万円）と伸長しました。事業基盤の強化に向けた投資の継続により販管費は増加（同103.9%）したものの、増収効果により吸収し、営業利益は前年同期比208.7%となる275百万円を確保しました。
- 営業利益の大幅な増加に伴い、経常利益は前年同期比238.0%（261百万円）、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期の損失（△86百万円）から大幅に改善し、160百万円の黒字となりました

連結損益計算書

	2025/3 2Q	2026/3 2Q	差異	前年同四半期比
売上高	7,807	9,414	1,606	120.6%
売上原価	6,150	7,553	1,402	122.8%
売上総利益	1,657	1,861	203	112.3%
販売費及び一般管理費	1,525	1,585	60	103.9%
営業利益	132	275	143	208.7%
営業外収益	10	32	21	295.3%
営業外費用	33	46	13	139.7%
経常利益	109	261	151	238.0%
特別利益	-	-	-	-
特別損失	150	-	-150	-
税金等調整前中間純利益	-40	261	301	-
法人税等合計	32	77	45	238.9%
中間純利益	-72	184	256	-
非支配株主に帰属する中間純利益	14	23	9	166.6%
親会社株主に帰属する中間純利益	-86	160	247	-

03

2026年3月期 通期連結業績予想 FY2026 Consolidated Earnings Forecast

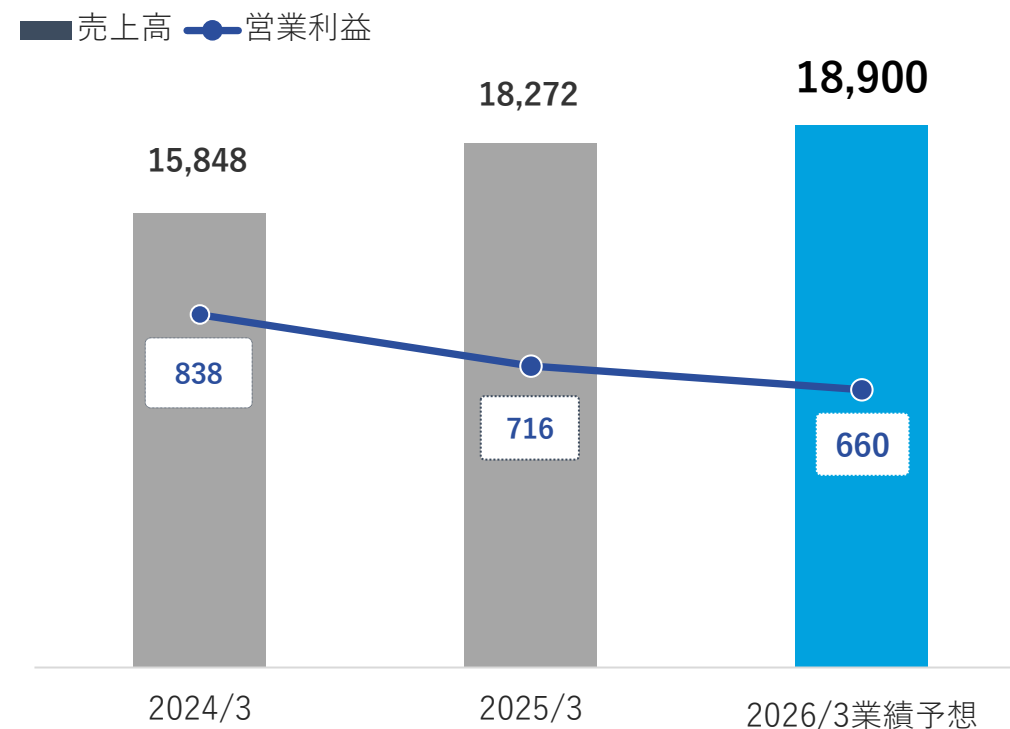
3. 2026年3月期 通期連結業績予想

主力事業の継続的な成長を目指し、戦略投資・ガバナンス強化を推進
各事業における新領域への取り組み推進し、継続的な増収を目指す

通期連結業績予想の概要

	2025/3 連結業績 (実績)	2026/3 業績予想	前期比
売上高	18,272	18,900	103.4%
営業利益	716	660	92.2%
経常利益	662	600	90.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	112	400	356.3%

- 為替動向や物価上昇による個人消費への影響等により、不透明な状況は継続する中、事業拡大に向けた戦略投資やガバナンス強化を推進
- 2026年3月期上期まで好調に進捗。下期に向けた市場の動向や為替の変動リスクなども踏まえ、現時点における通期業績予想に変更はありません。



04-1

事業セグメント別概況－メモリ・PC関連デバイス・IoT事業－ Overview by Business Segment

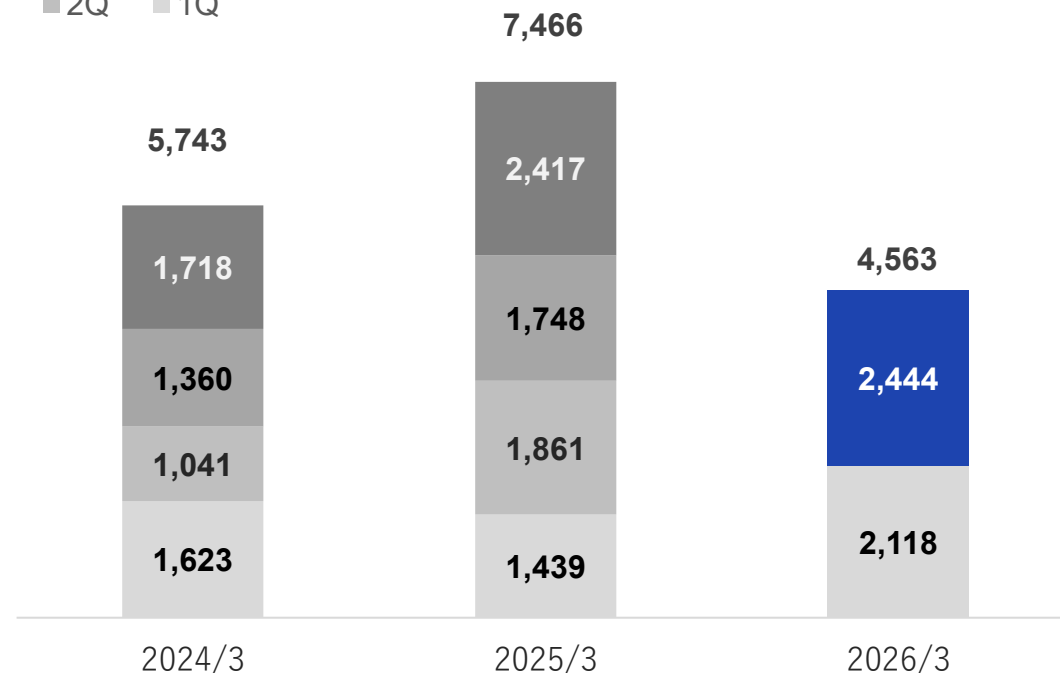
4-1. セグメント別概況 -メモリ・PC関連デバイス・IoT-：売上高

Windows11移行需要の継続、大型案件受注の獲得により大幅増収

- メモリ・PC関連デバイス事業においては、Windows 11への移行需要が継続したことに加え、主要顧客向けのメモリ製品の販売が想定を大幅に上回り、売上高は大幅に増加しました。また、AIサーバ向け需要拡大などを背景としたメモリ市況の価格上昇トレンドも、売上増加に寄与しました。
- IoT事業においては、既存案件に対応しつつ、グループ各社との連携による提案活動を推進するとともに、下期以降の収益確保・拡大に向けたAI需要に対応した新製品開発及び受託開発案件の受注活動を推進し、前年同期並みの売上高を確保しました。

売上高

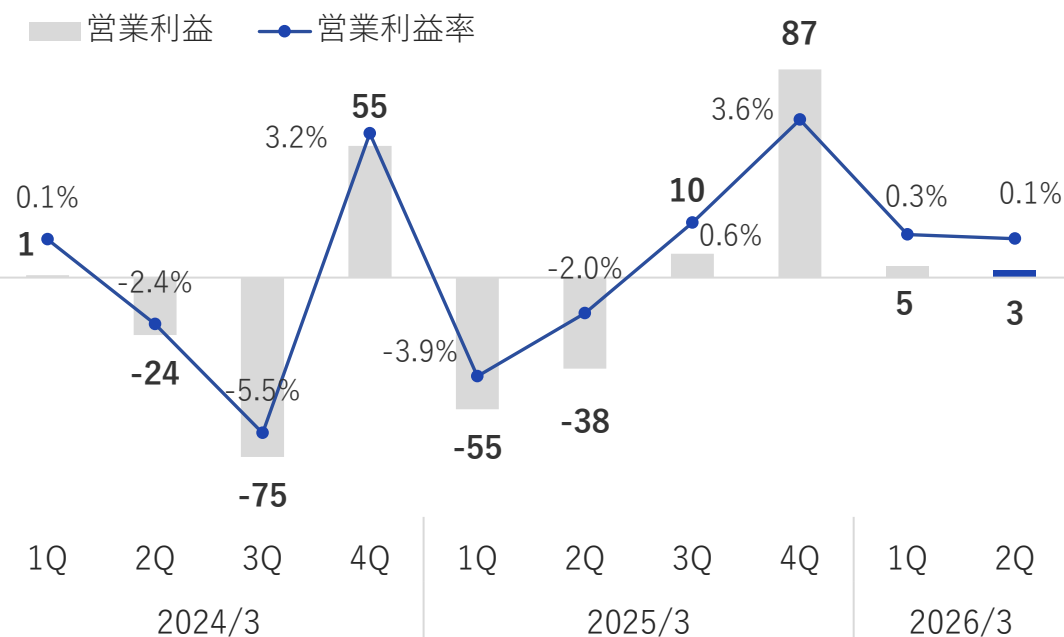
■ 4Q ■ 3Q
■ 2Q ■ 1Q



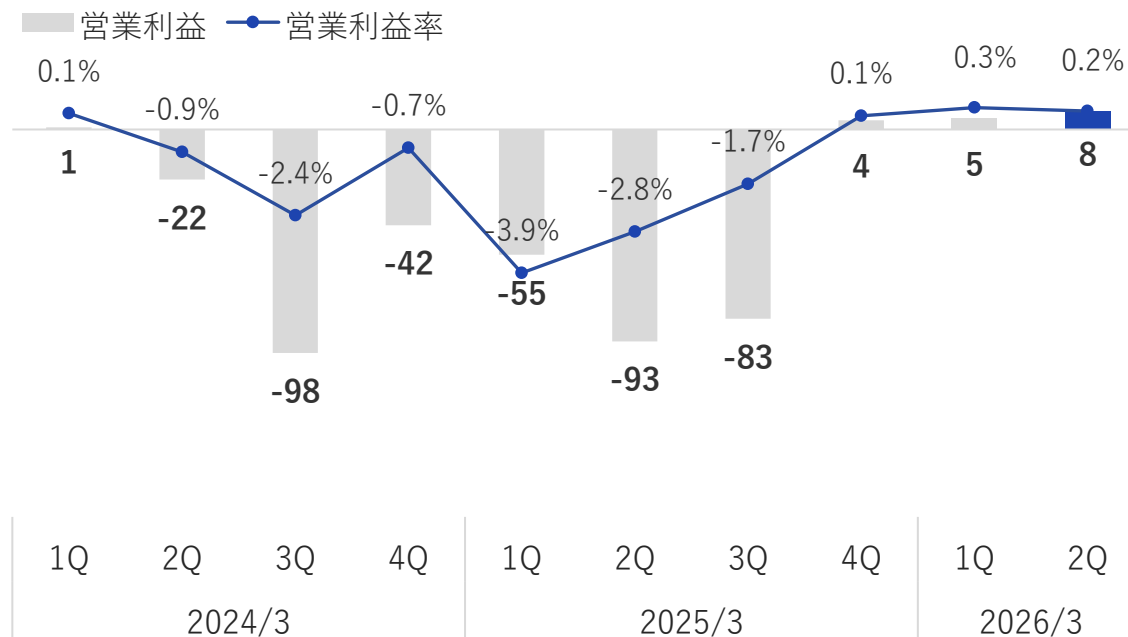
4-1. セグメント別概況 -メモリ・PC関連デバイス・IoT-：営業利益 会計期間・累計期間

好調に推移したメモリ・PC関連デバイス事業の寄与により、セグメント全体で上期累計の営業損益が前年同期の赤字から黒字転換

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



■ メモリ・PC関連デバイス事業は大幅な増収に加え、在庫の製品の販売に注力した結果、セグメント全体の収益に寄与しました。メモリ・PC関連デバイス事業の売上拡大がセグメント全体の営業利益を牽引し、前年同期（93百万円の損失）に対し、黒字転換（8百万円の利益）を達成しました。

■ IoT事業においては、下期以降の収益確保・拡大を見据え、将来の成長に向けた新製品開発や受託開発案件への取組みを継続しております。

4-1. セグメント別概況 -メモリ・PC関連デバイス・IoT-：ニューストピックス

IoT

プレスリリース 2025.7.30

保育園DXおまかせパック「ほいぴた」を2025年7月30日(水)提供開始

～ ICTを活かした園運営をトータルで支援、保育士の負担軽減と保護者の安心を両立 ～

ADTEC



保育園DXおまかせパック「ほいぴた」

「ほいぴた」は、保育の現場をもっとスマートに、もっと安心にするためのICT総合支援サービスです。

園児の登降園管理、園内Wi-Fiネットワーク整備、デジタルサイネージやネットワークカメラの導入、さらにはパソコン・タブレット環境の整備や防災対策まで支援します。

保育園の毎日をちょっとラクに、もっと安心にするやさしいICT。

登降園や防犯・防災などをまとめてサポートし、子どもたちの笑顔をそっと見守ります。

保育園DXに取り組む背景

アドテックは創業以来、メモリ製品や産業用IoTデバイスの開発・販売を通じ、国内外の幅広い産業に技術ソリューションを提供してきました。

近年、保育現場でも登降園管理などICTツールの導入が進む一方で、園全体のネットワーク環境やセキュリティ、デジタルインフラの整備はこれからというケースも見受けられます。

こうした状況を踏まえ、アドテックは「ICTツールを活かしきれる園づくり」を目指し、保育園に必要なICT環境の設計・導入・保守をトータルで支援する「ほいぴた」を開発しました。

さらに、同じAKIBAホールディングスグループの株式会社バディネットと協業し、全国規模の設置・保守体制を整備。グループの総合力で、現場に寄り添った支援を実現します。

商品サイト

<https://www.adtec.co.jp/product/product-for-corp/management-system/hoipita/>

4-1. セグメント別概況 -メモリ・PC関連デバイス・IoT-：ニューストピックス

産業用PC

プレスリリース 2025.8.20

産業用/組込みコンピュータ「ADSH-SLI-6412シリーズ」2025年8月20日(水)発売

～ 手のひらサイズの超小型筐体に、コストパフォーマンスに優れた Intel J6412プロセッサと豊富なI/Oを搭載したファンレス産業用PC「ADSH-SLI-6412シリーズ」を新発売 ～

ADTEC



「ADSH-SLI-6412シリーズ」

手のひらサイズ（120×75×51mm）の超小型筐体にコストパフォーマンスに優れた Intel® Celeron® J6412プロセッサと豊富なI/Oを搭載した超小型ファンレス産業用エッジコンピュータとなります。

- LAN×2ポート（2.5ギガLAN×2）
- COM×1ポート（RS232/RS422/RS485）
- DIO×1ポート（入出力各4チャンネル）
- DC12～24Vブロック端子の電源入力
- VESA規格/DINレール/Earなど多様なマウントに対応

本製品は、限られたスペースしかない装置内への組込みや、制御盤内への設置、産業用アプライアンスなど、産業分野での様々な用途にご利用が可能です。

また、アドテックが展開する高品質な産業用メモリ・ストレージを搭載することで、より高品質で耐久性に優れた産業用PCとなっております。

製品サイト

https://www.adtec.co.jp/file/service/ADTEC_Industrial_embeddedPC_ADSH-SLI-6412_series.pdf

4-1. セグメント別概況 -メモリ・PC関連デバイス・IoT-：ニューストピックス

産業用PC

プレスリリース 2025.8.21

Windows 11 IoT Enterprise LTSCプリインストール 産業用/組込みコンピュータを 2025年8月21日(木)に販売開始

～ 全ラインナップで最新のWindows IoT OSの選択肢を追加、お客様の長期運用計画に最適なソリューションを提供 ～

ADTEC



製品サイト

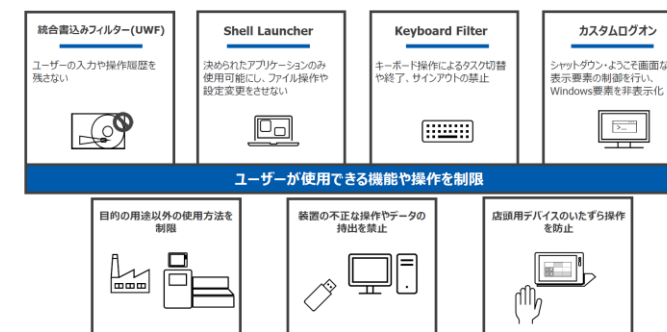
<https://www.adtec.co.jp/product/industry/fapc-development/>

「Windows 11 IoT Enterprise LTSCプリインストール」

産業用PCの全製品ラインナップにおいて、Windows 10 IoT Enterprise LTSCに加えて、新たにWindows 11 IoT Enterprise LTSCをプリインストールした製品の販売を開始いたします。

Windows 11 IoT Enterprise LTSC は、産業用／組込み用PC・IoTデバイス向けに設計された、長期供給・ロックダウン機能を有する専用OSです。

Windows IoT Enterpriseのロックダウン機能



また、今回新たにプリインストールが可能になったWindows 11 IoT Enterprise LTSCは、従来のWindows 10 IoT Enterprise LTSCよりも長期の提供が可能です。

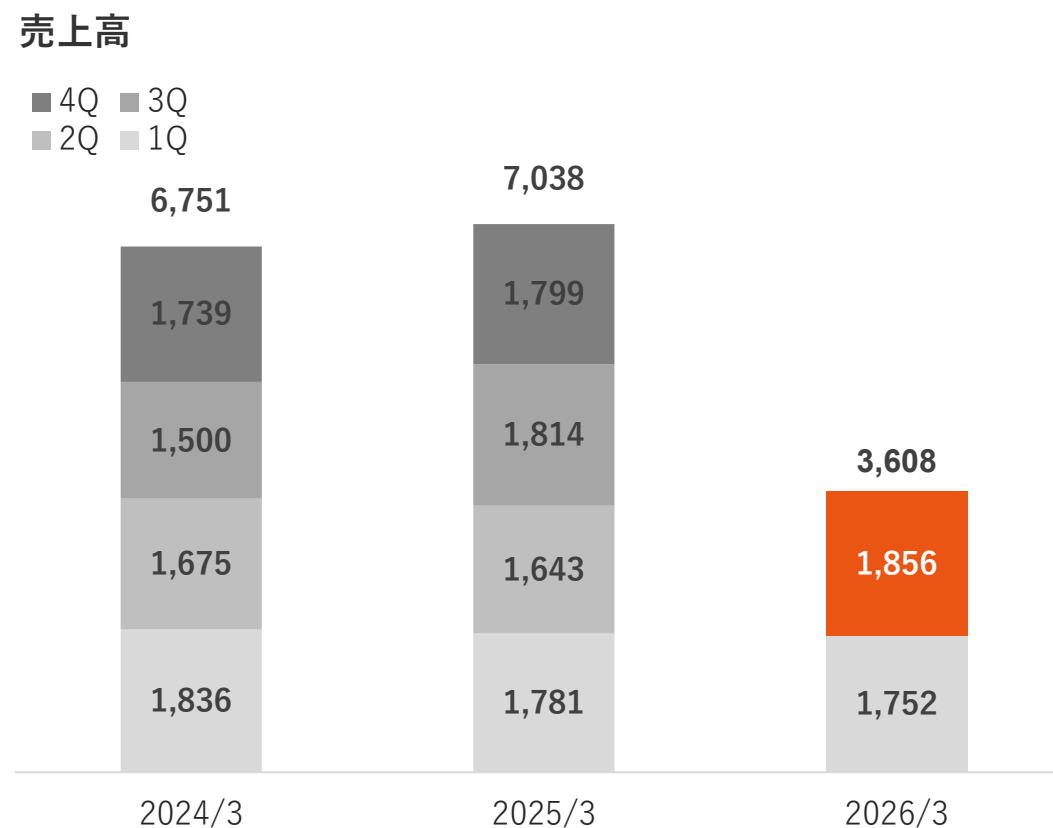
04-2

事業セグメント別概況－通信建設テック－ Overview by Business Segment

4-2. セグメント別概況 -通信建設テック-：売上高

主力工事の安定受注に加え、再生可能エネルギー関連の売上計上もあり、売上高は前年同期比105.4%と堅調な進捗

- モバイル通信関連の主力である屋内電波対策工事は、主要顧客との強固な関係性を背景に、安定的な工事完了件数を確保し、売上に貢献しました。
- サービスロボット関連、クラウド型カメラの設置工事が拡大基調で推移するとともに、コンタクトセンター事業（アルコールチェック代行サービス等）も堅調に推移しました。また、再生可能エネルギー関連の案件を当第2四半期で計上したことも売上増加に寄与しています。
- ブランチテクノにおける通信キャリア向けの基地局関連工事においても、一部の工事が早期に完工したことにより、前年同期※を上回る売上高を確保しました。

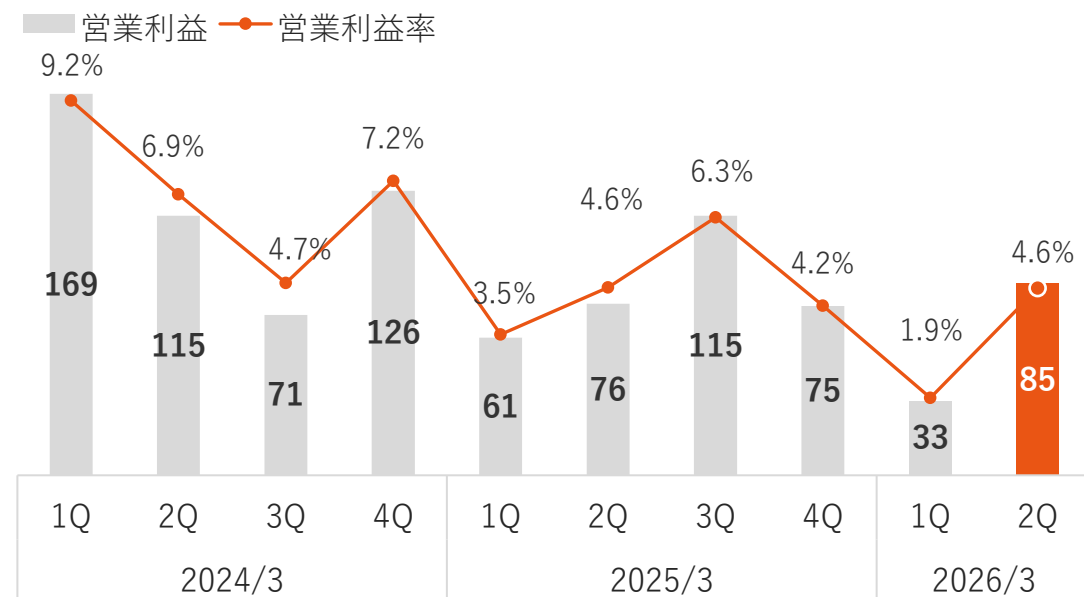


※ブランチテクノは2024年7月からの連結開始のため、前年同期比較は第2四半期会計期間（3ヵ月）の数値に基づいています。

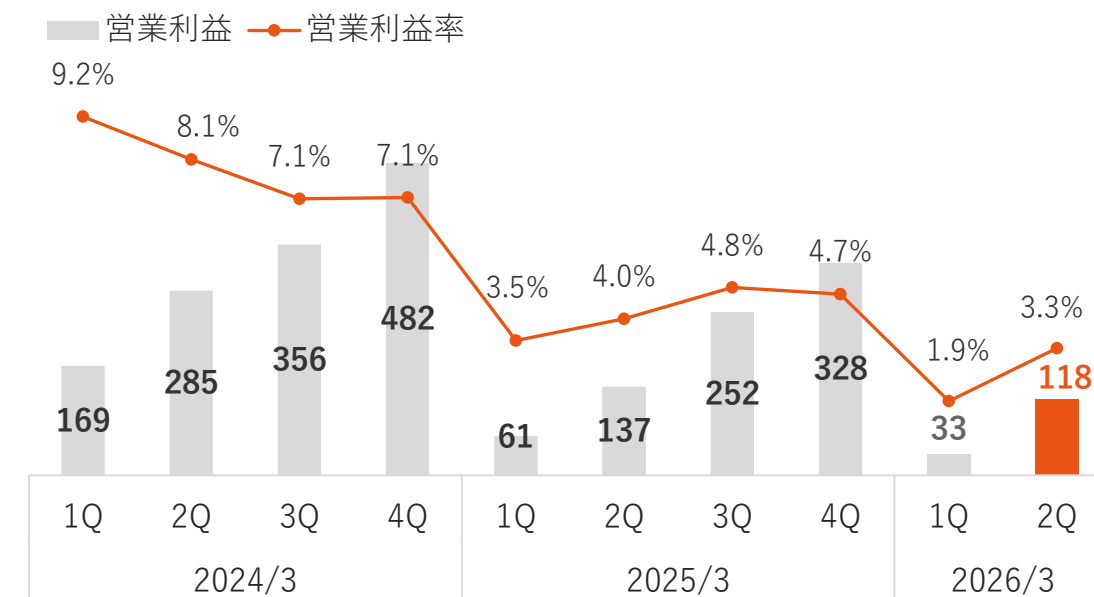
4-2. セグメント別概況 -通信建設テック-：営業利益 会計期間・累計期間

主力工事の堅調な推移に加え、各領域の売上拡大により、
成長投資を実行しつつ前年同期並みの利益水準を確保

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 主力である通信キャリア向けの屋内電波対策工事の堅調な推移に加え、再生可能エネルギー関連案件の計上等により、前年同期を上回る売上高を確保した結果、一定水準の利益を確保しました。
- サービスロボット関連事業、クラウド型カメラ設置事業、コンタクトセンター事業（アルコールチェック代行サービス等）も、堅調な売上拡大により、収益基盤の安定に貢献しました。
- バディネットにおいて、将来の事業拡大を見据えた体制強化のため人員採用を強化したこと等により販管費は増加しました。

4-2. セグメント別概況 -通信建設テック：ニューストピックス

プレスリリース

2025.9.4

バディネット、サービスロボット保守代行サービス市場で 保守代行数量シェア2位を獲得（2024年実績）-富士経済調査

株式会社バディネットが、株式会社富士経済（代表取締役社長：菊地 弘幸、以下富士経済）が2025年8月28日に発刊した市場調査レポート「2025年版 ワールドワイドロボット関連市場の現状と将来展望 サービスロボット編」において、国内のサービスロボット保守代行数量シェア2位を獲得（2024年実績）いたしました。

引き続き、自動化や省人化により少子高齢化などの様々な社会的課題を解決するサービスロボットの普及に貢献すべく、サービスロボット保守代行サービス市場におけるマーケットシェア1位獲得を目指してまいります。

出典：富士経済「2025年版 ワールドワイドロボット関連市場の現状と
将来展望サービスロボット編」
＜サービスロボット保守代行サービス、2024年実績、数量ベース＞

プレスリリース詳細【バディネットHP】

<https://www.buddynet.jp/press-release/market-research-250904/>



4-2. セグメント別概況 -通信建設テック：ニューストピックス

プレスリリース

2025.11.5

一般社団法人ロボットデリバリー協会参画のお知らせ

株式会社バディネットが、利便性と安全性を備えたロボットデリバリーサービスの基盤構築および早期の社会実装を目指す一般社団法人ロボットデリバリー協会の正会員として参画いたしました。今回の参画により、ロボット関連事業で培ったノウハウや経験を活かし、特に自動配送ロボット導入に不可欠なインフラ構築、および導入後の保守・メンテナンスの部分において、ロボットデリバリー協会様の取り組みに積極的に関与することで、自動配送ロボット社会実装の実現に貢献してまいります。



ロボットデリバリー協会
ROBOT DELIVERY ASSOCIATION



▶ロボットデリバリー協会について

ロボットデリバリー協会様は、自動配送ロボットが公道を走行するための業界における自主的な安全基準の制定や安全基準への適合審査の仕組みづくりに取り組むことにより、利便性と安全性を備えたロボットデリバリーサービスの基盤構築と早期の社会実装を目指しています。
公式サイト：<https://robot-delivery.org/>

プレスリリース詳細【バディネットHP】

<https://www.buddynet.jp/press-release/robot-delivery-251105/>

4-2. セグメント別概況 -通信建設テック：ニューストピックス

プレスリリース 2025.9.30

ブランチテクノ、コーポレートサイトを全面リニューアル

株式会社ブランチテクノが、2025年9月30日にコーポレートサイトを全面リニューアルいたしました。
名古屋を拠点に約20年にわたり、携帯基地局の調査から設計、工事まで一貫して手掛けた経験と実績をもとに、「確かな技術で、未来を『つなぎ』、社会を『動かす』。」という新たなコーポレートメッセージを掲げ、これまで携帯電話基地局事業で培ってまいりました高度な技術力と、信頼を何よりも大切にする真摯な姿勢を揺るぎない核としながら、AIカメラやサービスロボット、EV充電設備といった最先端分野へも果敢に挑戦し、より広く社会の課題解決に貢献してまいります。

**確かな技術で、
未来を『つなぎ』、
社会を『動かす』。**

長年培ったノウハウと、
最先端を追求する技術力。
私たちは通信インフラと先端技術で、
未来の『あたりまえ』を創造します。

コーポレートサイトURL：<https://branch-t.co.jp/>

【株式会社ブランチテクノ概要】

会社名	株式会社ブランチテクノ
代表者	代表取締役社長 堤 誠治 代表取締役副社長 伊藤 忍
資本金	三千万円
本社所在地	愛知県名古屋市西区名駅3-10-17 IT名駅ビル2号館4F
事業内容	電気通信工事の設計・施工管理
免許	愛知県知事許可(般-4)第61499号 電気通信工事業
	愛知県知事許可(般-6)第61499号
	土木工事業、とび・土工工事業、電気工事業、 鋼構造物工事業、舗装工事業、解体工事業
	労働者派遣事業 許可番号/派23-302697号 ISO9001認証取得 許可番号/ISAQ1376

04-3

事業セグメント別概況－HPC事業－ Overview by Business Segment

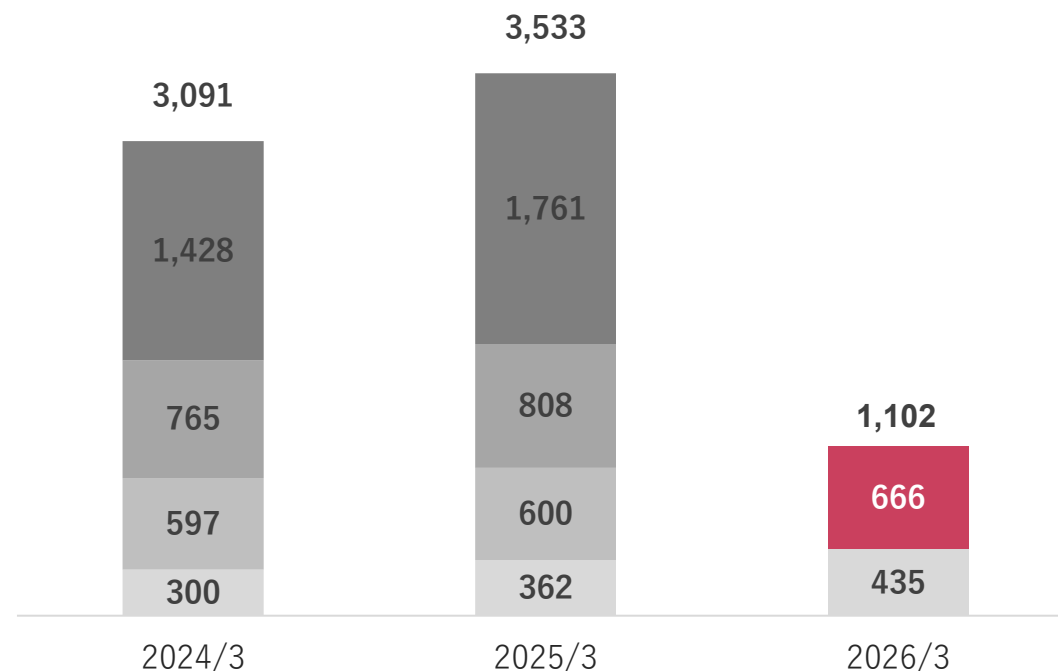
4-3. セグメント別概況 -HPC事業-：売上高

大規模セミナー経由の大型案件が寄与し、上期累計売上高は前年同期比 114.5%

- メーカーと連携した大規模セミナー開催が、大型案件の受注獲得に繋がり、売上拡大に寄与しました。
- 第1四半期に続き第2四半期も増収を確保した結果、上期累計の売上高は1,102百万円（前年同期比114.5%）となりました。
- 下期においても、メーカー新製品の販売開始や各種キャンペーンを推進し、通期業績計画の達成を目指します。

売上高

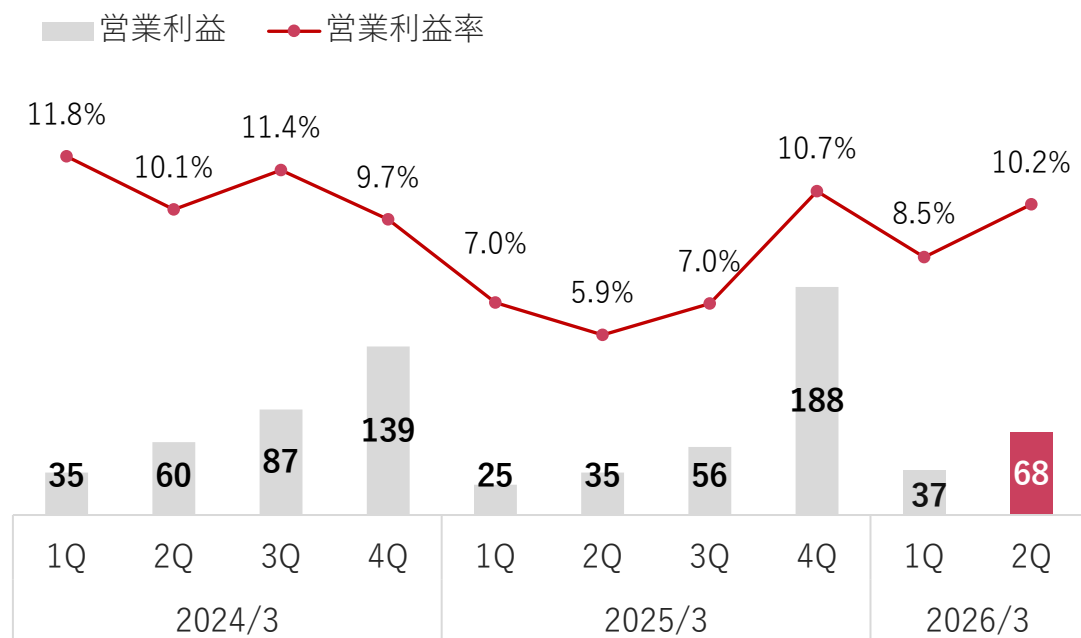
■ 4Q ■ 3Q
■ 2Q ■ 1Q



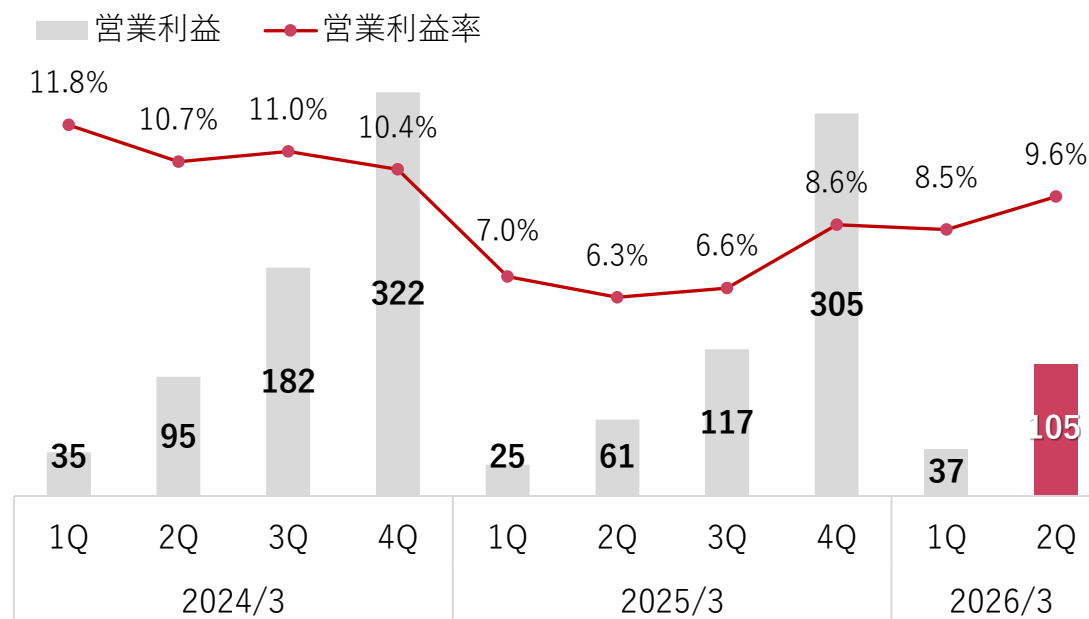
4-3. セグメント別概況 -HPC事業-：営業利益 会計期間・累計期間

大型案件の受注増加と採算性改善が寄与し、上期累計の営業利益は前年同期比172.5%

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 学会やセミナー等を通じた継続的な販促活動が、大型案件の受注獲得に繋がりました。受注構成の改善も進んだ結果、上期累計の営業利益は105百万円（前年同期比 172.5%）、営業利益率は9.6%（前年同期比 3.3ポイント改善）となりました。
- 円安進行による仕入コストへの影響等を注視しつつ、下期も新製品の投入やソフトベンダーとの協業を推進し、通期業績計画の達成を目指します。

4-3. セグメント別概況 -HPC事業- ：ニューストピックス

学会・展示会への参加
【機器展示含む】

日本バイオインフォマティクス学会年会 IIBMP2025

2025年9月実施

第35回設計工学・システム部門講演会

2025年9月実施

第19回分子科学討論会2025

2025年9月実施

日本流体力学学会 年会2025

2025年9月実施

第30回日本バーチャルリアリティ学会大会

2025年9月実施

日本機械学会 第38回計算力学講演会（CMD2025）

2025年9月実施

商品取扱開始

ASUS ASCENT GX10

2025年8月～

04-4

事業セグメント別概況－その他事業(旅館事業)－ Overview by Business Segment

4-4. その他の事業－旅館事業－：売上高

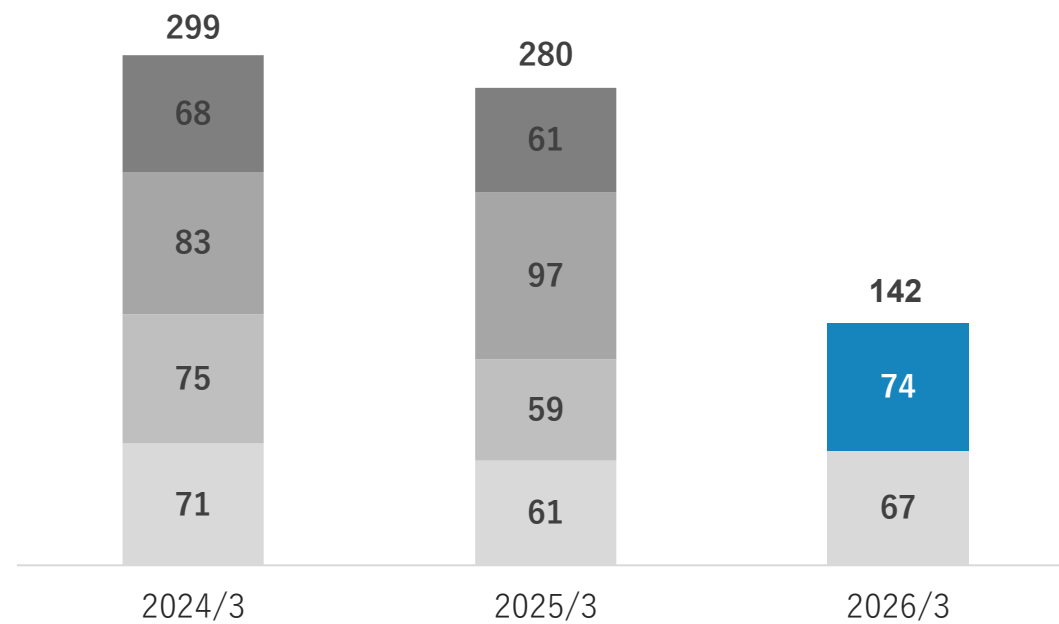
集客施策が寄与し上期で増収確保。繁忙期に向けて集客強化。

■今夏は猛暑で国内のペット同伴の旅行需要が減退する中、既存顧客向けキャンペーンや新規企画により、お盆や夏休みの商機を捉えて8月に大きく数字を伸ばした結果、上期累計の売上高は142百万円（前年同期比 117.5%）となりました

■関西万博の影響等もあり、大型連休を除く期間は集客に苦戦。年末年始の繁忙期に向け、既存顧客への集客施策の強化を実施

売上高

■ 4Q ■ 3Q
■ 2Q ■ 1Q



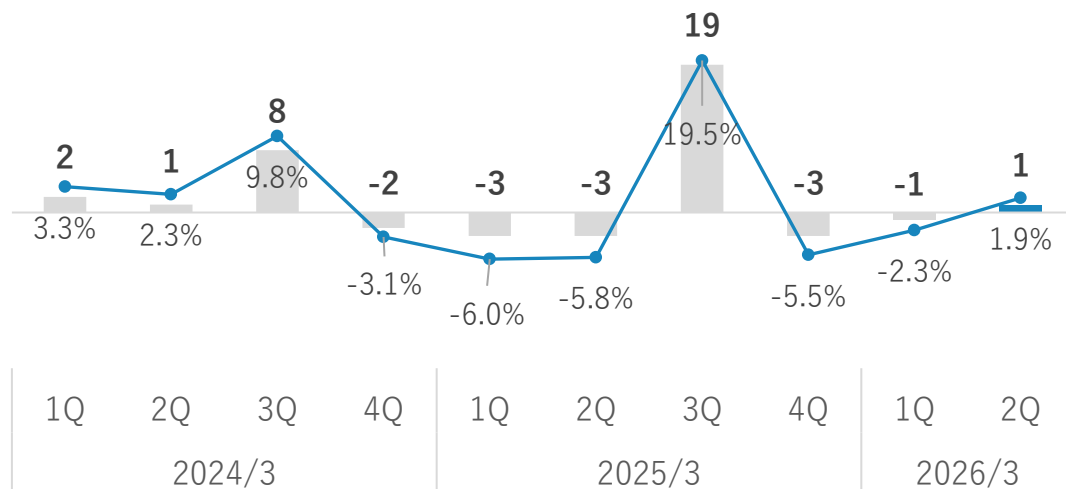
※本スライドに表記している「その他の事業」の業績については、
全社調整額を含まない数値を記載しております。

4-4. セグメント別概況 -その他事業(旅館事業)：営業利益 会計期間・累計期間

継続的なコスト削減が奏功し、第2四半期会計期間は黒字転換

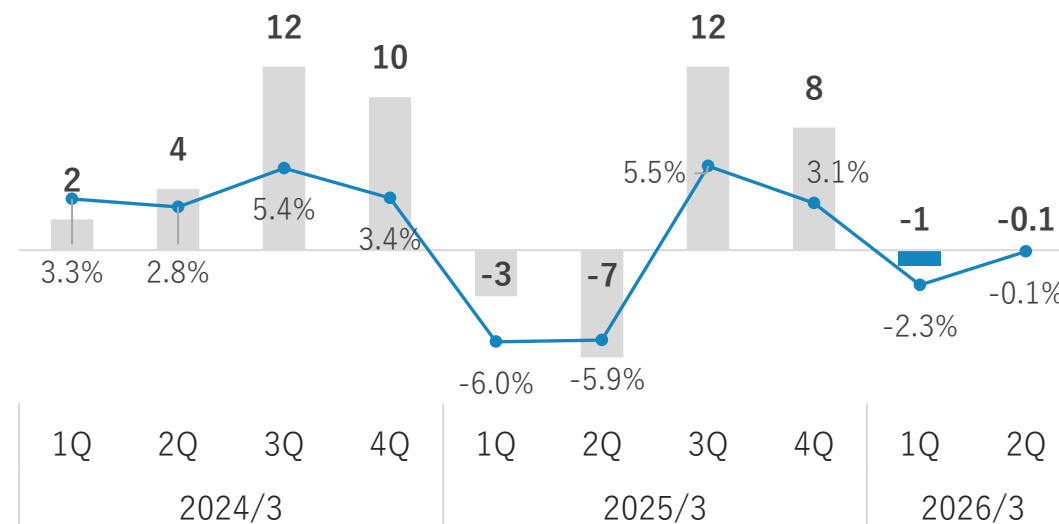
営業利益 会計期間

■ 営業利益 ● 営業利益率



営業利益 累計期間

■ 営業利益 ● 営業利益率



- 継続的なオペレーションの見直しに加え、水道光熱費をはじめとする販管費のコントロールを徹底し、コスト削減に努めました。
- 閑散期の売上確保とコスト削減効果により、第2四半期会計期間(25年7月～9月)は1百万円の営業利益（前年同期は3百万円の営業損失）を計上しました。
- 下期も料金設定やキャンペーン内容の見直しを推進し、通期業績計画の達成を目指します。

※本スライドに表記している「その他の事業」の業績については、全社調整額を含まない数値を記載しております。

参考資料 Appendix

会社概要

商号	株式会社AKIBAホールディングス（旧株式会社アドテック）
上場市場	東京証券取引所スタンダード（証券コード：6840）
設立	1983年2月17日
資本金	1 億円
事業内容	持株会社としてグループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理並びにそれらに付帯する業務
決算期	3月末
役職員数	412名（連結 2025年9月末日）
本社所在地	〒104-0045 東京都中央区築地2-1-17陽光築地ビル Tel：03-3541-5068(代表) Fax：03-6260-6258

役員	代表取締役社長 取締役 CFO 管理本部長 取締役 管理本部副本部長 取締役 経営戦略本部長 取締役（社外） 取締役（社外） 取締役（社外） 取締役（社外） 常勤監査役 監査役（社外） 監査役（社外） 補欠監査役（社外） 堀 礼一郎 五十嵐 英 富山 理布 白鳥 俊昭 丸山 一郎 黒部 得善 後藤田 翔 中川 英之 内藤 城次郎 上林 三子雄 西田 史朗 藤浪 努
会計監査人	KDA監査法人
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

沿革

1980年代	1983.2	株式会社アドテックを設立（商号変更により現「株式会社AKIBAホールディングス」）
1990年代	1993.6	パソコン用増設メモリモジュールの製造販売を開始
	1998.11	日本証券業協会に株式を店頭登録
2000年代	2004.12	ジャスダック証券取引所（東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式を上場
2010年代	2013.5	株式会社エッジクルー（株式会社アキバデバイス）を設立
	2015.1	株式会社バディネット（現 連結子会社）を買収
	2015.10	株式会社AKIBAホールディングスに商号変更、新設分割により株式会社アドテック（現 連結子会社）を設立、純粋持株会社体制に移行
	2016.3	iconic storage株式会社を買収
	2017.1	株式会社HPCテック（現 連結子会社）を買収
	2019.7	ウェブソリューション事業を株式会社バディネットに移管、通信コンサルティング事業に統合
2020年代	2020.5	株式会社ダイヤモンドペット&リゾート（旧 株式会社AKIBA LABO福岡）にて新規事業（ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」の運営）開始
	2020.10	ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」 グランドオープン
	2020.10	株式会社バディネットが株式会社トランテンエンジニアリングを買収
	2021.4	株式会社バディネットがiconic storage株式会社と株式会社トランテンエンジニアリングを吸収合併
	2021.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を買収
	2022.4	東京証券取引所の市場区分の再編に伴い、東京証券取引所スタンダード市場へ移行
	2022.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を吸収合併
	2022.11	株式会社バディネットが株式会社リーバンを買収
	2022.12	株式会社エッジクルーから株式会社アキバデバイスに商号変更
	2024.1	株式会社アドテックが株式会社アキバデバイスを吸収合併
	2024.4	株式会社バディネットが株式会社ブランチテクノ（現 連結子会社）を買収
	2025.3	株式会社バディネットが株式会社リーバンと吸収合併

企業理念

Mission

持続可能な未来社会をITで実現する

For a sustainable future with IT

Vision

先端技術の追求

先端技術を追求し、製品、サービスの提供及び経営におけるITの最先端企業となります。

持続型企業の形成

ITを駆使して、法令を遵守し、持続的成長が可能な企業形成を推進します。

弛みない革新への挑戦

探究、挑戦することを恐れず、忘れず、革新的なデザインとITの力で社会に革新をもたらします。

新しい価値の創出

日々刻々と変化する社会において、ITを活用した新しい価値を創出し続けます。

事業セグメント及びグループ会社紹介



メモリ・PC関連デバイス・IoT



株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック



株式会社バディネット
株式会社ブランチテクノ

通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等
※ブランチテクノは2024年4月1日に連結子会社化（2024年6月30日がみなし取得日）
※バディネットがリーバンを2025年3月31日付で吸収合併



H P C
(高性能科学技術計算機)



株式会社H P C テック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他（旅館他）

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等

2026年3月期の業績予想と各事業の方針・施策

【2026年3月期連結業績予想概要】

	2025/3 連結業績 (実績)	2026/3 業績予想	前期比
売上高	18,272	18,900	103.4%
営業利益	716	660	92.2%
経常利益	662	600	90.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	112	400	356.3%

【グループ全体及び各事業の方針・施策】



AKIBA HOLDINGS

メモリ・PC関連デバイス・IoT

ADTEC

通信建設テック

Buddy Net
Branch Techno

HPC(高性能科学技術計算機)

HPC TECH

その他(旅館他)

Diamond pets & resort

- ❖ グループの健全なガバナンス体制の維持
- ❖ 財政状態の健全・改善推進：ネットCFの黒字化へ向けて利益確保
- ❖ 成長シナリオの推進：グループの継続的な拡大に向けた基盤構築

既存事業の収益改善
新事業領域の開発
経営効率の向上

：取扱製品の絞り込み、在庫水準の最適化等
：これまでの取り組みの絞り込みと新規領域の開発
：コスト見直しの実施、拠点・体制などの見直し

既存事業の戦略的な拡大
新サービス分野への挑戦
再エネ関連工事の拡大

：カメラ・ロボット関連等対応強化、組織体制整備
：既存事業をベースにした新サービスへの挑戦実施
：リーバンとの合併による再エネ関連の全国展開

AI分野の提案内容拡大
新製品用の水冷製品開発

：生成AI分野でお客様への提案内容の拡大
：CPU TDP500W, GPU TDP 600Wに向けた
水冷サーバ・水冷環境の開発

インバウンド顧客獲得
特色を活かした取り組み
不動産事業の開始

：海外向けの集客メディア掲載で海外顧客獲得
：季節感を打ち出したイベント・新メニュー開発
：適切な案件実施により、収益機会の獲得

財務情報（業績、経営指標の推移等）

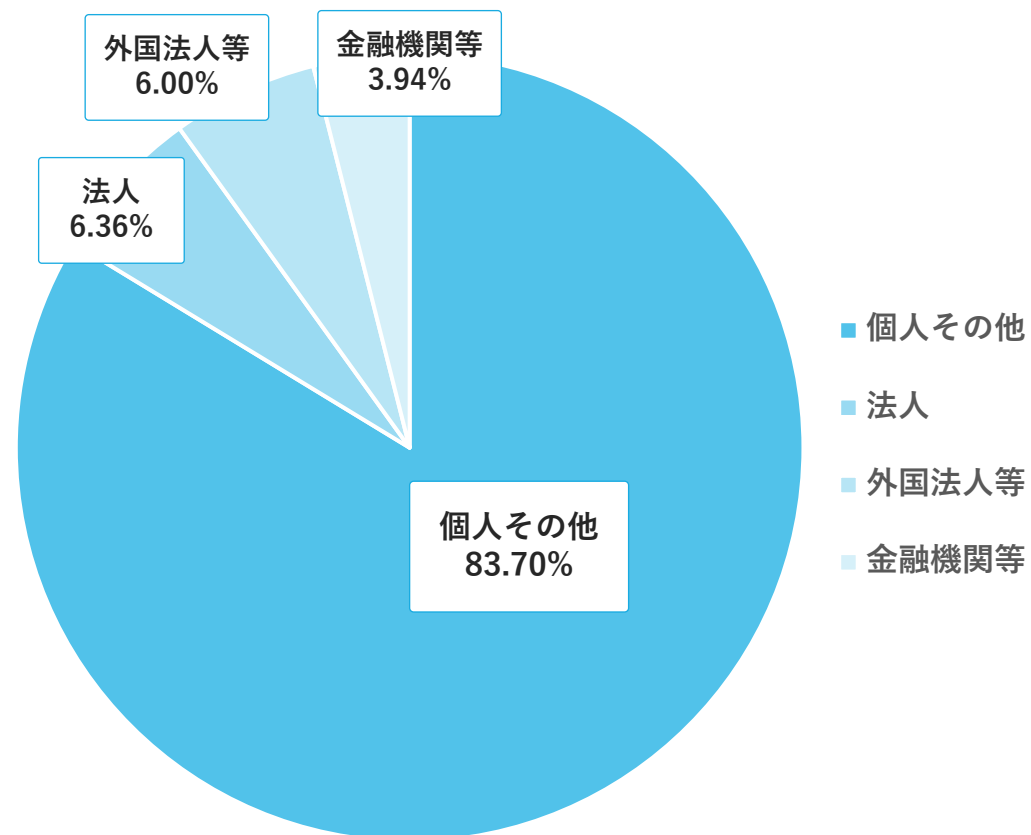
	第38期	第39期	第40期	第41期	第42期	第43期
決算年月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月
売上高(千円)	12,574,151	14,742,554	16,166,841	15,007,149	15,848,974	18,272,045
経常利益(千円)	636,377	682,843	711,268	1,031,089	844,773	662,301
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	654,580	345,839	382,352	702,077	292,567	112,268
包括利益(千円)	702,237	396,663	426,161	753,768	367,902	183,053
純資産額(千円)	1,850,742	2,247,178	2,673,308	3,427,077	3,794,979	3,978,033
総資産額(千円)	6,958,007	8,380,543	9,177,714	10,136,167	11,468,317	13,627,886
1株当たり純資産額(円)	184.75	222.36	264.45	340.36	372.31	384.53
1株当たり当期純利益金額(円)	71.25	37.65	41.62	76.44	31.85	12.22
自己資本比率(%)	24.4	24.4	26.5	30.8	29.8	25.9
自己資本利益率(%)	47.8	18.5	17.1	25.3	8.9	3.2
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	△246,303	948,655	△147,249	△20,468	△40,663	△374,342
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	366,840	△183,351	△112,089	△393,662	△212,897	△108,877
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	881,034	396,249	253,343	81,518	971,043	1,696,024
現金及び現金同等物の期末残高(千円)	2,571,439	3,732,992	3,728,478	3,396,300	4,113,909	5,325,760
従業員数（外、平均臨時雇用者数）(人)	126(97)	164(73)	196(97)	221(119)	241(128)	266(105)

株式情報：株式基本情報、株主構成等

【株式基本情報】

上場証券取引所：東京証券取引所スタンダード市場
証券コード：6840
発行可能株式総数：27,328,000株
発行済株式総数：9,192,560株
単元株式数：100株
株主名簿管理人：東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社

【株主構成：2025年3月末時点】





AKIBA HOLDINGS

本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません。